

三浦構成員

熊本 社会福祉法人愛隣園

障害者芸術活動支援センター@熊本

《実施団体概要》

昭和 25 年創設の社会福祉法人愛隣園は、児童養護、軽費、特養、障害者支援施設と在宅サービス 15 事業を行う法人です。その障害者支援施設愛隣館は、地域に住む障害のある作家の支援をきっかけに、熊本県全域で障害者芸術活動支援ネットワークを築くため、平成 26 年市民団体アール・ブリュット パートナース熊本の創立をはかり、事務局を担っています。

このパートナーズ熊本は、障害のある人々からの自立と社会参加の促進並びに共生社会の実現を目指し、美術館等での展覧会、震災仮設団地等での移動美術館を開催しています。これまでの 3 年間で約 1 万人の人が県内の作家の作品を鑑賞しました。障害のある人々らが担う新しい芸術文化の振興と、認め合って共に生きる社会の実現に向かう機運の高まりが熊本で生まれ始めています。

都道府県の現状と課題

これまで①特別支援学校単位や合同での文化祭（作品展）②障害者支援施設単位の作品展③実行委員会主催の「くまもと障がい者芸術展」などが、福祉・教育機関中心で行われてきました。

このような中、作品の「芸術としての価値」の周知をめざし私たちは活動を始めました。

障害者の芸術活動支援には、①作家・家族からの信頼を得る、身近な相談支援機能、②美術専門家等の展示による、作品を大切にしたい発表の場づくり、等のため人材とコーディネート力、一定の財源、が必要です。①作品を評価する美術専門家と福祉・教育関係者をつなぐ機関や連携スキル、②障害者支援施設、支援学校等支援者の研修を、充実させるべき課題と捉えています。

今年度の取組概要とねらい

今年度は①芸術活動支援に関する相談機能②支援方法や法律に関する研修を通じた人材育成③地域に根ざし、多分野と連携する支援のネットワーク④作家の社会参加につながる参加型展覧会、に重点を置いて取り組みました。ねらいは以下の 4 点です。①障害のある人々と家族のエンパワメント。②それぞれの環境で認められ、生きやすくなること（承認・社会参加）③作品を通して、障害のある人の特有の力と比類のない個性が目に見え、障害の正しい理解・差別解消へとつながること。④芸術活動支援は、作家の表現とその過程を大切にしていくので、支援学校や福祉施設における支援の質の向上（個別支援の浸透と支援の連続性）が生まれること。

今年度事業の成果

今年度、①熊本県立美術館で開催した展覧会と、仮設団地みんなの家をはじめ 4 箇所で開催した移動美術館等を通して、5,700 人を超える人に作品の魅力を発信し、作家へのメッセージ（感想）が 1,148 件寄せられました。次に、②作家・家族・支援者のニーズに添って、展覧会や一泊交流研修等、ピアサポートを育み、創作へのインスピレーションを高める研修を取り入れ、地域資源と地域性を生かした芸術活動支援が好評でした。③権利保護の研修で、今後の活動の方向性を確認できました。④障害のある作家と家族や支援者同士の仲間としての支え合いと、作品を通じた社会貢献の実感が生まれました。また、⑤6 回の新聞報道と 2 回のテレビ放送で、作品の人気の高まり、作家への共感が伝わり、作家と支援者の力になりました。⑥まちづくり団体や大学等からも来年度の連携依頼があり、活動の幅・支援の輪が広がっています。

《取組紹介》地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援 「熊本方式」

【1】取組のねらい

「参加型展覧会」事業を、主催.アール・ブリュット パートナーズ熊本 共催.熊本県立美術館 社会福祉法人愛隣園で実施。①各種団体との連携②美術専門家等との連携③作家・家族・支援者等との連携と参加④作品を通じた来観者との心のコミュニケーションを目標としました。

そして、県立美術館の障害者芸術活動への支援により、美術家が目指す場所にて「アール・ブリュット展覧会 Vol.3 ～誰に教わったわけでもない。熊本が育んだ魂の表現～」が実現。同じ会場で美術館所有のデュビュッフェ作品が特別展示されることになり、熊本の21人の作家作品と夢のコラボ。私達は展覧会を安全に、多くの人々に楽しんで頂けるよう取り組みました。

【2】実施内容

(1) 開催準備 [連携者 延べ150人]

- ①展覧会企画ミーティング
- ②作品選考・訪問調査
- ③作家紹介のための訪問調査・撮影
- ④ポスター、キャプション等制作・広報活動
- ⑤評価委員会の開催…出展作品決定
- ⑥契約・作品の借り上げ
- ⑦作品搬入・インストレーションアーティスト坂崎隆一氏
会場設営・作品展示・照明、バナー等の設置

(2) 開催 [連携者 延べ200人]

- ①オープニングセレモニー：120人
- ②ギャラリートーク：真武真喜子キュレーター
- ③作家ライブ：作家協力5人、17回
- ④講演会「アール・ブリュットの潮流と源流」
熊本県立美術館学芸課長 村上哲氏
- ⑤受付、エスコート、監視、アンケート実施

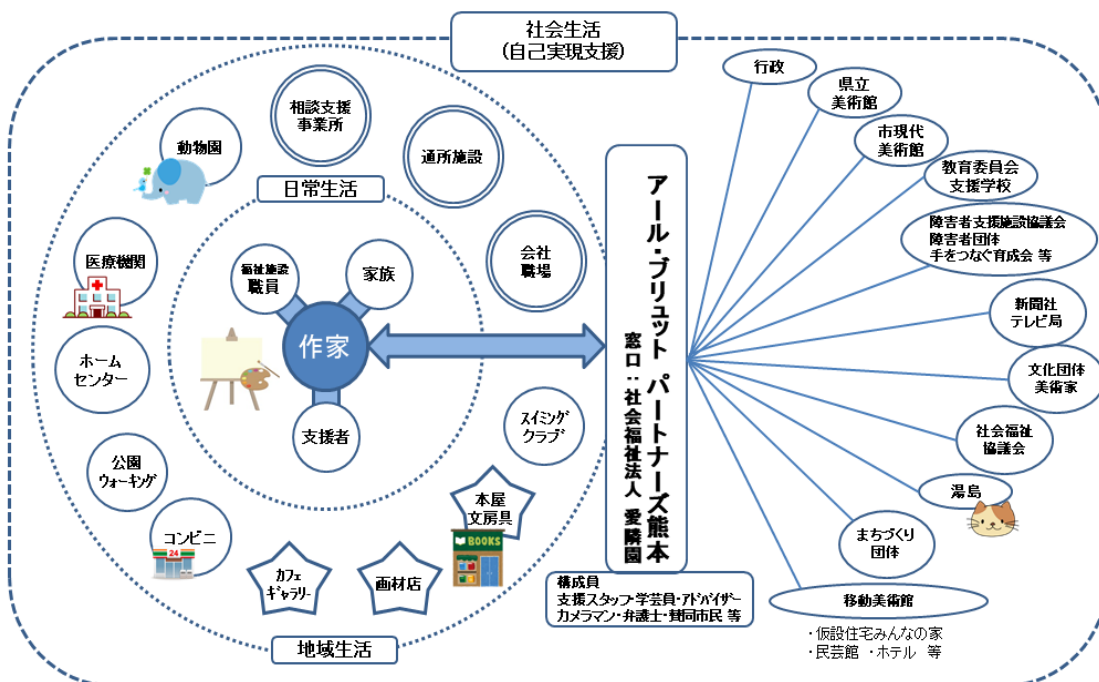
【3】成果

- ①13日間の開催で、来観者2,252人、作品の感想、作家へのメッセージ(3ヶ国語)が704件。たくさんのエピソードと共に、来観者を元気づける展覧会と評価されました。
- ②多くの人や団体と連携することでみんなの展覧会となり、キュレーターやアーティストによる新しい空間展示の提案、新しい作家作品の発掘、触発される人々の増加につながりました。
- ③毎日様々な出会いの生まれる会場で、「作家ライブ」に輪を作る人々の表情と、作家・支援者・来観者の自然な交流に、地域に根ざす展覧会の意義を感じました。工事中の熊本城、その城内の美術館から震災復興への和やかなエネルギーを発信できたと考えます。

(左) 障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」 (右上) 県立美術館で展覧会 (右下) 作家のセレクトでまちづくりに貢献

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあって行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



熊本 社会福祉法人愛隣園

障害者芸術文化活動支援センター@熊本

実施団体概要

1950（昭和25）年創設以来、児童養護、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設の4カ所の運営と在宅サービス15事業を行う法人です。障害者支援施設「愛隣館」は、地域に住む障害のある作家の支援をきっかけに、県全域で障害者芸術活動支援ネットワークを築くため、2014（平成26）年に市民団体「アール・ブリュット パートナーズ熊本」を創立。県や市、福祉・教育・文化関係機関、企業などと連携し、美術館での展覧会や県内各地での移動美術館を継続開催しています。過去4年間で約1万3000人が障害のある作家の作品を鑑賞しました。障害のある人たちが担う新しい芸術文化の振興と、認め合いともに生きる社会の実現へ歩みを進めています。

都道府県の現状と課題

県内在住もしくは事業所利用の障害のある人を対象にした「くまもと障がい者芸術展」が23回目を数えるほか、特別支援学校の合同展がまちなかで開催されたり、当法人主催の4回目の展覧会が県立美術館本館で開催されたりするなど、障害のある人たちの芸術のおもしろさや豊かさが地域社会に伝わり始めました。相談支援や、当センターと美術専門家な

どによる作品を大切にしたい発表の場があることが少しずつ周囲に浸透し、期待が寄せられています。今年度は「作品を評価する美術専門家と福祉・教育関係者をつなぐ機関との連携の充実」「障害者支援施設や特別支援学校、家族、支援者のネットワークづくりと研修」を深めていくことを課題として捉えました。

今年度の取り組み概要とねらい

①身近な相談支援機能、②作家が制作実演などで参加する展覧会とまちなかや広域での展示、③地域に根ざした多分野と連携する支援ネットワークの継続、④九州をはじめ全国と連携した支援方法や法律に関する研修と人材育成。この4つを重点に取り組みました。そして「障害のある人と支援者のエンパワーメント」「作家がそれぞれの環境で認められ、生

きやすくなること（承認・社会参加）」「障害のある人の力と個性が見え、障害に対する正しい理解を深め、差別解消につながること」「芸術活動支援において作家の表現とその過程を大切にする方法が、特別支援学校や福祉施設における支援の質の向上（個別支援の浸透と支援の連続性）につながること」を目標としました。

今年度事業の成果

熊本県立美術館本館での展覧会と、大学や中心市街地、離島の連なる天草地方での移動美術館により、のべ4200人超が作品を鑑賞しました。寄せられた感想は件。鑑賞風景は来場者が作品と対話しているようであり、作家や関係者に喜びと制作意欲をもたらしました。作家の依頼を受けて、当センターが企業や行政との連絡調整を行い、店舗展示、行政

冊子の表紙、ポスター掲載などが実現。報酬を伴う契約書の作成などの支援で家の自立と社会参加を促進しました。新聞4回、テレビ3回、ラジオ1回の情報発信などで障害のある人の芸術活動への関心を高めました。来年度に向けてコラボレーションの提案や全国大会での展示などの連携依頼があり、芸術活動支援の普及が実感できました。

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル

「熊本方式」2018でまちづくり貢献

日程 | 2018年6月9日(土)~15日(金) 会場 | 熊本市中心市街地 上通・下通商店街

取り組みのねらい

熊本地震からの復興をめざす「くまもと・まち魅力向上協議会」と協力し、地域共生社会の浸透に向け、障害のある作家の芸術作品を展示。買い物や食事でまちを訪れた人に、作

品のもつ魅力を伝え、作品を通じた作家とまちの人たちのコミュニケーションが生まれることを目標にしました。

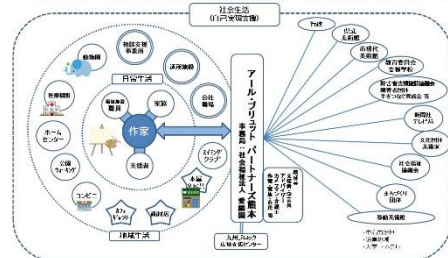
実施内容

熊本市の中心市街地にある上通・下通商店街のアーケード中央に、障害のある作家の作品を展示しました。まちづくり団体と連携したショーケース内などでの作品展示を1日行った後、市内で「おしゃれスポット」として話題の書店のショーウィンドーでの展示を1週間実施。途中、同店のショーウィンドーは西

日が当たることがわかり、遮光ガラスに替えて継続。そのほか安全面に配慮したスタッフ配置など、作家と作品に敬意を表す展示になりました。また現地で作家が制作の実演を行ったところ、たくさんの買い物客が足を止め、その様子に見入っていました。



地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2018
 ☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が中心団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を展開していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、ぬいに刺激、あい高めあって行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



左 | 離島連なる天草地方で移動美術館 右上 | ピアサポートでまちづくりに貢献 右下 | 障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2018

成果

商店街の若手後継者や大学研究者らによる共生のまちづくりが進むなか、障害のある人たちの芸術がその核を担いました。鑑賞目的以外でまちを訪れていた幅広い層の人たちが、作品の魅力にはまり、作品や作家の制作ライブを通して自然なコミュニケーションが生まれ、地域の人たちからも「この取り組みを継続してほしい」という声が上がりました。障

害のある人たちの芸術に関心のなかった人たち、関心があっても接点のなかった人たちが、その芸術に触れるきっかけとなり、後の展覧会や移動美術館への動員にもつながりました。まちなかでの事業は人が集いやすく、作家や家族、支援者同士のネットワークも深まり、相互にサポートし合うピアサポートの関係性も強化できました。

アール・ブリュット展覧会 3年目

県内の障害者らによる独創的な芸術作品を集めた「アール・ブリュット展覧会」（県立美術館で開催中）が3年目を迎えた。「熊本が育んだ魂の表現」をキャッチフレーズにした展覧会開催から作家の発掘まで、市民団体が草の根的に創作活動を支援する試みは全国的に珍しく、「熊本方式」として注目を集めている。
(岩下勉)



3年目となるアール・ブリュット展覧会に作品が展示された作家たち。熊本市

障害者のアート 支える輪

「すごい」。熊本市の県立美術館内の会場で、驚くほど細かい描写や独特の色使いの絵画など21人の作家の120点に、来場者が思わず声を上げる。3日の開幕以降、連日200人以上が訪れているという盛況ぶりだ。

今回は登録作家50人の中から、元北九州市立美術館学芸員の真武真喜子さんが初めて展示作家を選出。真武さんは「世界に出せるレベルの作家が、熊本にこれだけいることが驚きだった」と話す。

アール・ブリュット(生の芸術)とは、フランスの画家ジャン・デュビュッフェ(1901〜85年)が提唱者で、美術の専門教育を受けていない人が、自身の衝動のまま表現した芸術と解釈される。今回の展覧会では、同館が所蔵するデュビュッフェの石版画10点も特別展示。県内の作家たちと提唱者の「共演」も実現した。

展覧会を主催する市民団体「アール・ブリュット・パートナーズ熊本」(西島喜義会長)は、2014年に熊本市現代美術館で開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展に山鹿市の会社員松本寛庸さん(25)の作品が選ばれたのを機に設立された。

福祉や医療、行政、美術など幅広い分野の160人が会員となり、国や県、企業などの補助・助成金を活用して、15年から年1回の展覧会を開くほか、各地での移動美術館、作家の調査発掘、著作権や作品の保管などの相談にも対応している。

市民団体が運営 「熊本方式」に注目



アール・ブリュット展覧会に特別展示されたジャン・デュビュッフェの石版画。奥は展示作家のちぎり絵。熊本市

応ずる。

アール・ブリュットは滋賀県が先駆的で、県社会福祉事業団が04年に専門美術館を設立したほか、県も専門部署を設置するなど積極的に支援してきた。一方、熊本県では山鹿市の障害者支援施設「愛隣館」(三浦貴子館長)を事務局に、会員のボランティアで展覧会を運営するなど草の根的に活動している。

過去2回の展覧会には各10日前後で約2000人が来場。西島会長は「障害者の作品としてではなく芸術作品として評価・展示することで、作品の価値や作家の創作意欲も格段に高まっている。共生社会を目指す熊本方式の活動で、全国にアピールしていきたい」と話している。

◇アール・ブリュット展覧会 県立美術館で15日まで。無料。